

写真家ホンマタカシは、10年以上に亘りハワイのオアフ島ノースショアで波を撮り続けている。この度、これまでの膨大な波の撮影の中から選ばれた写真がニューヨークのロングハウスプロジェクト ギャラリーに於いて、2013年9月12日から10月26日までの間展示されることになった。

ニューヨークで初めてのこの個展では、ホンマ自身が数多くの波のイメージの新しい作品集を企画している。この事をホンマは「再編集」と言い、同時に作品集のカタログも取りまとめた。カタログの中では、哲学者で美術評論家のデビッド・ラロックが『**Cresting**』（ピークに達する）と言う題の新作のエッセイを贈り、絵画、写真、そして設置彫刻に至る波のイメージの表現に於ける躍動的で多様な歴史の中にホンマの作品を位置付けている。

ラロックはホンマの波のイメージの本質を、イメージのままの形で、また独自のクオリティにおいて吟味している。そして、ホンマの写真を J.M.W. ターナー、アルフレッド・シスレー、アンセル・アダムス、ゲルハルト・リヒター、ロバート・マッフルソープ、デビッド・ホックニー、ランケ・ダイクストラ、アンディ・ゴールズワージー、マヤ・リンや 日本の葛飾北斎や杉本ひろしのような芸術家の作品と関連対応させることを通し、波のイメージの特別な功績を見出すために詳しく解説している。

ラロック氏のエッセイからの抜粋：

ホンマタカシの『**New Waves**』は、明らかに単調で 同じようなイメージばかりのまとまりない連続であり、単なる海の波の写真の繰り返しに見えるそうだが、この作品全体を綿密に見てみると、単なる波の写真の繰り返しではない事が分かる。そこにあるのは、陸と海と空の触れ合いについての意識的に真剣なで、吟味された、絵画的な黙想なのだ。ホンマの監修下、彼の巧妙な能力によって、主題が平穏で単純であるかのように偽装されていることは、シーケンス(まとまりのある一連のシーン) やシリーズの中の次々のイメージを追う毎に明らかになる。これは写真が集成されて本に装丁されると、特に顕著である。それ自体が波と少しも違わないと言えるだろう。

相互に関連した画像をまとめたホンマ氏の優れた作品集を、この分野で活動している他のアーティストの作品と並べ置くと、『**New Waves**』の中でホンマがほとんどの波のイメージの支配的な表現形式や慣習に携わっていることをさらに鑑賞することができる。そして、この波のイメージの表現は、風景描写の真のサブジャンルのような物として考えるだけの値打ちがあるだろう。この写真の分野におけるホンマの活動の本質について言及すること自体が、この芸術的描写の中で普及しているセグメントへ、彼がどんなに重要な貢献をしているかと言う事に信憑性を与える。

私たちはすべての波を知らないし、すべての波を知ることも出来ない。(それと言うのは、波は人類に先立って存在し、おそらく人類の滅亡後も存在し続けるだろうから。)しかし、私たちは信頼出来る尺度と解釈でもってして、これらの波を知っているのだ。それは、アメリカ人の哲学者であり作家ヘンリー・デイビッド・ソローがウォールデン湖畔で、夏から冬、そして夏に戻る事を通して人生の段階的变化を知ったように；ホンマの作品によって可能になった波とのより一層親密な関係が、波は我々が思い込んでいたようなクリシェ（使い古されたお決まりの表現）では全くない事、あるいは、クリシェであってもも巧妙に取り扱われたならば、私たちの関心を保証するかもしれないと言うことに気づかせてくれる。

多くの波のイメージをさっと見れば分かるように、波は常にその姿を変化させているものでそのイメージは私たちの心に毎回同じ反応を誘い起こすとは限らない。波はホンマのカメラの其々フレームと同じように、波としての水の命の瞬間ごとに不可解な特殊性として存在すると言う点で、個体（少なくとも個別的な存在）であると言える。

上記は波の存在を擬人化するのが目的ではなく、この波の進行の中でそれぞれの波に精密性があること単に示したに過ぎない。それを認めたにも拘らず、それをどのように扱ったらいいのか、どう捕らえたらいいのか、はっきりしない。けれどもこの認識こそが将に。。。波が思考に値し、また、思考を促すことが出来る限りにおいて。。。波（そしてイメージとしてのこれらの波）に駆り立てられて考えたことなのだ。その思考の中で幾分超人的に、波（そして波にまつわる風景）は、自然の中だけでなく芸術の中にも長い歴史を形成すると言う最近の発見に戻ってきたのだ。

言い換えると、ホンマの作品は。。。オリジナルで巧みであるが。。。波の一つと同様に、過去に遡る連続性の一部なのだ。

画家、彫刻家、写真家に係わらず芸術家が観察する人そして思想家として次々と海岸線を訪れている。それにも拘らず、甘ったるく、退屈でさえある見慣れた被写体や景色に接する時、芸術家は「目の前にある それ自体が感情を和らげるのでも回顧的でもなく、単に綺麗と言うだけではない風景をどのように理解したらいいのか？」と思わずにいられない。

例えば、波は常に「新しい波」を生み出す現象であるが、それ自体が一つの「新しい波」になるような波についての芸術作品を一体どのように作り出すのだろうか？

ホンマタカシ 『New Waves 2000-2013』

ロングハウス プロジェクト  
ハドソン スクエア  
285 スプリング ストリート  
ニューヨーク、 NY 10013